

令和6年度 第1回舞鶴市図書館協議会 記録（抄録）

日時：令和6年7月11日（木）

午前10時30分～12時

会場：舞鶴市役所 612会議室

< 1. 議事 >

- (1) 開会
- (2) 会長、副会長選任
- (3) 図書館協議会 議事
 - 議題① 令和5年度の事業報告について
 - 議題② 令和6年度の事業進捗状況について
 - 議題③ 舞鶴市図書館基本計画に基づく図書館再編の取組状況について
- (4) 閉会

< 2. 会議録 >

- (1) 開会 （10時30分）
- (2) 会長、副会長選任
 - 会長に中川幾郎氏、副会長に常世田良氏を選任
- (3) 図書館協議会 議事
 - 議題①～③について事務局から説明
 - * 質問や意見は以下のとおり

①〔議題〕 令和5年度の事業報告について

- ・従来の図書館のままでなく、職員の皆さんが外へ積極的に出て行って、中央館建設に向けて助走しているのが感じられた。
- ・自分たちではなく将来の子どもたちのために何をしてあげられるかが大事だと思う。
- ・レファレンスについては、議員をはじめいろんな方から図書館に相談が入り、幅広い層のニーズに向かっていてうれしく思った。
- ・様々な取り組みの結果、利用は微増しているものの、コロナ前の状況には回復していないということだが、その原因がわかるようであれば教えてほしい。

→ 事務局より

利用の減少については、コロナ禍で外出を控えていた時期が長かったため、図書館離れにつながり、すぐには利用者が戻らない現象が全国の図書館で起こっているようだ。

何とか巻き返して足を運んでもらえるように考えている。

- ・電子書籍のデータの活用について、個人情報に関わるものではあるが、市民のニーズをつかむために、年代別の傾向などを把握し運営面で活用してはどうか。
- ・人が重要であるが、良い建物になればいいなと思っている。

②〔議題〕 令和6年度の事業進捗状況について

- ・図書館司書の研修については、やる気があるなど分かる。中心となる人が引っ張っていて、いい感じだなと思う。
- ・あそびあむ等へ出かける等、様々な事業をされているが、必ずしも図書につながる内容ではなくてもいいので、興味を引くイベントをしてはどうか。また、その情報発信についても、多くなっているように感じるので、今後も継続してほしい。

→ 事務局より

ご意見をいただき、励ましていただいたと感じる。司書の研修は予定どおり実施し、スキルアップにつなげたい。またイベントについては、市民が行ってみようと思う内容を考え、関連の本も紹介していきたい。

③〔議題〕 舞鶴市図書館基本計画に基づく図書館再編の取組状況について

- ・中央図書館の整備に関しては、木の使用を検討してはどうか。精神的に落ち着く図書館になるのではないだろうか。

→ 事務局より

基本設計の仕様書の中で、京都府内産の木材使用について書いている。具体的には決まっていないが、設計業者等と話し合っていきたい。

- ・懇談会やワークショップで出された意見に対してどう回答しているのか。進捗状況が分かれば、市民にも伝わりやすく、市民の意見を反映した図書館ができると感じる。

→ 事務局より

懇談会でいただいた意見には、ホームページで回答を示しており、ワークショップでも、いただいた意見にはグループワークの中等で事業者から考え方を伝えている。

- ・分館については、中央図書館が出来上がるまでの間に、市民が安心できるような繋がりがあればありがたい。また、分館であっても名称はそのままにするなど、市民が愛する近くの図書館になるような工夫も検討してはどうか。

→ 事務局より

分館の名前だが、条例上は分館という名前であっても、それをどう呼ぶかは別の話

であり、地域の名前を付けるなども考えていきたい。

- ・心配だった大雨による浸水にも改善策があることが分かった。

→ 事務局より

浸水対策については、第2回ワークショップで市の考え方をもとに、設計事業者の方から対策を示していただいた。舞鶴市の洪水ハザードマップでは、予定地は0.5mから3mの浸水想定となっているが、そのもととなる京都府の浸水想定マルチハザードマップでは0.5mから2mの想定になっている。舞鶴市のハザードマップでは、より安全な対策ができるように、床上浸水以上で2階までの高さの浸水想定については、分かりやすく1mから2mのところと、2mから3mのところをまとめて、1mから3mと表記している。最終決定ではないが、今は2mまでの浸水を想定して基本設計を進めているところであるが、それでは心配だというご意見もあるため、今後も検討していく。

- ・完成予想図をわくわくしながら見た。防災、耐震性、防犯上の様々な工夫やユニバーサルデザイン等、市民が安心して使えるよう、設計段階から考えられていると思う。舞鶴市ならではの図書館ができるといいと思う。
- ・デジタルなのか紙なのかということではなく両方を統括して、いろんなメディアを使いながら情報が発信できる、長く使われる図書館をつくるためには、ソフト面、運用面での工夫を見越して進めなければならないと感じた。
- ・本の読み聞かせをする場所に本を並べたら、幼い子もよく手に取るように、人が集まる場所に本を置いたら、手に取って見るようになるので、そういう機会が増えればと思う。
- ・ワークショップに参加したが、東図書館の話が出たので、中央図書館の計画と並行して、早く東図書館の計画を立てて示すのがいいかと思う。

→ 事務局より

今年度3回のワークショップは、中央図書館の設計をテーマに進めており、分館については今年度中に、市からしっかりとしたイメージを提示し、皆さんからのヒアリングなどを通して固めていきたいと思っている。まずは中央図書館の設計についてのワークショップをして、それから分館についてのイメージをお示ししたいと考えている。

- ・ワークショップで、中央図書館の青写真を見せていただいたが、自動車図書館や各分館との連携のためには、きっちりとした車庫がいるのではないかと思う。特に連携ということを考えて設計を進めてはどうか。

→ 事務局より

バックヤードの設計については司書も関わって、設計業者に意見を伝えており、分館とも連携を十分取って全域サービスができる建物とするため、頑張っていきたい。

- ・中央図書館ができたあとの分館については、どんなイメージになるのか。

→ 事務局より

図書館基本計画においては、東・西の図書館を集約・統合し、中央図書館を整備することとしており、場所はＪＲ西舞鶴駅の東口である。集約・統合に伴って、現在の東西図書館は廃止を予定しているが、中央図書館を中心に市内全域にサービスを行きわたらせることが図書館基本計画の１つの目的であり、現在の中・南・加佐３つの分館に加えて、東地区と大浦地区の計５地区に分館を設ける予定である。東地区の分館は、商工観光センターとまなびあむを候補施設としている。分館だけではネットワークを十分に結べない部分もあるため、自動車図書館を導入し、市内に拠点を設けて回っていくことも考えている。また、小学校や中学校との連携も、図書館基本計画の目的の１つである。

- ・舞鶴市の図書館の問題は利用率が低いことがあげられるが、舞鶴市図書館基本計画には、どこに住んでいても一定のサービスを受けられるようにするにはどうすればいいかが書いてある。そのためには分館が非常に重要であり、先進図書館のように全体で一つの図書館として機能するようにし、市民全体へのサービスを底上げすることが大事だと考える。
- ・どこに住んでいようとも困っている大人の問題が解決するような図書館、働いている人たちが情報を求めて行くような図書館であれば、子どもたちに対するサービスや高齢者に対するサービスも当たり前のようにできるはずである。
- ・中央図書館の周辺の人だけが便利になるような話ではなく、各分館にもサービスを届け、情報提供ができる働きをするのが中央図書館であり、目的は全域奉仕のはずだ。
- ・市議会での図書館に関する議論は、協議会でしっかり共有し、協議会での議論の内容は市議会へも共有するなど、公開を前提とした、情報を踏まえた議論が大事だと考える。
- ・学校やこども園などとの連携についても、各委員から提案をいただきたい。
- ・もっと利用率を上げるために、もっと市民社会にアプローチしていく、そういう図書館を目指したいと思う。中央図書館の使命と地区ごとの課題をみすえながら、分館のあり方も含めて、この協議会で議論を深めていきたいと思う。

(4) 閉会 (12時)